

生活支援・介護予防基盤整備事業だより

生活支援・介護予防基盤整備事業とは・・・

高齢化のピークとなる2025年に向けて、地域包括ケアシステムの構築が急がれるなか、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう画一的なサービスではなく、地域の実情に即した支えあいの体制作りをすすめるもので、高齢者も担い手となり参画することで結果として介護予防につなげていく事業

一宮市社会福祉協議会では、平成27年度より「生活支援・介護予防基盤整備事業」を市から受託し、地域における支えあいの体制づくりを進めています。

その中心となる地域づくりの調整役として、市全域(第1層)の「生活支援コーディネーター」を社会福祉協議会に配置し、活動しています。平成28年度からは連区ごと(第2層)の「生活支援コーディネーター」が地域包括支援センターに配置され、この事業を担っています。

昨年度、一部の連区で行われた話し合いの中から挙がってきた課題として、「集える場所の確保」と「地域で支える活動の担い手の確保」がありました。

今回は、担い手の養成として7月に開催しました「ちょこっと助け合いボランティア養成研修」について報告させていただきます。



知多市にある南粕谷おたすけ会かずぐちの一口さんから、家具の移動や電球の取り替えなど、日常生活の困りごとをお手伝いする活動や、地域の情報交換の場として機能している南粕谷ハウス(常設型サロン)について石井さんからお話を聞きました。「困っている事に共感し、何とかしなければいけない」と思い「まずは自分が始めるから一緒にやろう」と声をかける事から始まったと教えて頂きました。

できることから一歩前に進むことの大切さ、人と人をつなぐコミュニケーションの方法としての「傾聴」について学びました。今後のちょこボラサービスにも活用していきたいと思えます。



これから、受講生の方と一緒にちょこっと助け合いのサービス(ちょこボラサービス)の実現に向けて、しくみづくり検討会議を開催し、事業を進めてまいります。

これからも一宮市の実情に即したお互いさまの活動が根づくよう、地域の皆様にも、ご協力・ご参加いただきながら活動を進めていきます。今後の進捗状況につきましても、随時ご報告させていただきます。

